

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イオメディカル
事業所名	グループホームみゆき 1F
所在地	松山市御幸2丁目8-18
自己評価作成日	平成26年9月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の方々が毎日安心して生活を送れるように目標に掲げている笑顔で優しく親切にをモットーに日々取り組んでいる。日頃から密に関わりを持ち、ご本人の要望や困っている事を傾聴して、本人主体で物事を考えその人に合ったケア、やりたい事が実現できるような取り組みを行っている。また、一人一人役割を持って頂き、イキイキとした生活が送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

民家の中にある事業所のため、道案内の看板や矢印を付けて場所がわかるようにされている。散歩時、近くの神社の鳥居の近くで花を育てている方が、お花のことを教えてくれたり、川沿いの桜の木の下のお地藏さんがある場所に、地域の高齢者の方が集う場所があり、通りがかると声をかけてくれる。利用者個々の得意なことを続けられるような支援に取り組んでおられ、調査訪問時、90歳を超えた利用者は、お若い頃に劇をした経験のある「曾我兄弟の仇討ち」のセリフやあらすじを最初から最後まで話してくれた。若年の利用者は他利用者との年齢差もあり、コミュニケーションが難しいようで、職員は、一緒に食材の買い物に出かけたり、調理等しながら過ごせるよう支援されている。又、居室でお好きな編み物や洋裁をする時間も大切にしており、他利用者の縫い物や居間で使用するボックスのカーテン等を作ってくれている。そのような取り組みが利用者の意欲や自信にもつながっているようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 株式会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホームみゆき 1F

記入者(管理者)

氏名 平井 清仁

評価完了日

平成26年 9月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を職員全員で共有し、理念に基づいてケアの実施を目指している。また、毎年目標を定め、達成に向けて取り組みを行っている。 (外部評価) 理念を家訓として「思いやり優しく親切にします。」「明るく楽しく仲良くします。」「心のやすらぎが得られる家庭的な雰囲気になります。」と示し、パンフレットに明記されている。又、運営推進会議等を行う会議室には、家訓とともに職員で話し合い作成した「老馬の知恵を借り 馬を合わせよう」という今年度の目標も掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議を通じて、事業所での取り組みを把握して頂くと共に防災や地域行事に参加している。また、高校生のボランティアなどの受け入れも行っている。 (外部評価) 民家の中にある事業所のため、道案内の看板や矢印を付けて場所がわかるようにされている。散歩時、近くの神社の鳥居の近くで花を育てている方が、お花のことを教えてくれたり、川沿いの桜の木の下のお地藏さんがある場所に、地域の高齢者の方が集う場所があり、通りかかると声をかけてくれる。近くの幼稚園の運動会を見に行ったり、県のボランティアネットから高校生や大学生がボランティアで来られている。民生委員の方からは「認知症の人がいるがどうしたらいいか」と相談があり、ご自宅で「ひとりで暮らしたい」と言うご本人の希望を踏まえて、地域の介護事業所を紹介されたこともある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 気軽に立ち寄って頂けるような環境作りを心がけており地域の方々との交流を目指している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に1回運営推進会議を行い地域の方々に参加して頂いている。事業所の近況を把握して頂き適切な助言を頂いている。</p> <p>(外部評価) 年明け最初の会議時には、人前でお話することが得意な90歳を超える利用者にあいさつやお話をお願いしており、参加者は熱心に耳を傾けられ、その場の雰囲気が和むようだ。会議では、近況や活動の報告を行い、防災の話し合いを行ったり、時には家族会と併せて行くこともある。会議を通じて民生委員や自主防災会長、高齢者見守り員の方とも顔見知りになったことで、普段も来てくれて利用者とお話等されるようだ。</p>	<p>会議を工夫して、いろいろな人が事業所にかかわることができるように取組み、利用者と地域の方達とのつながりを拡げていかれてほしい。ひいては、事業所の専門性や特性、有用性を活かして地域のコミュニティーの拠点になる活動を工夫されてみてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日頃から密に連絡を取り、協力関係を築けるように取り組んでいる。また必要に応じて助言などとして頂いている。</p> <p>(外部評価) 防災対策マニュアルについて、市から「皆で作上げることが大事」とのアドバイスを受け、現在、ミーティング時に職員で話し合いながら作成しているところである。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 必要な場合は家族に同意書にサインをして頂き理解して頂けるように努めている。また勉強会や研修に参加して知識を身に付け身体拘束のないケアを目指している。</p> <p>(外部評価) 9月の運営推進会議時、身体拘束や虐待についての勉強会を行い、メンバーと一緒に学ばれた。夜間、おむつに手がいき、不衛生な状態になる利用者には、ご家族と話し合い、現在はつなぎ着用にて対処しているが、職員で話し合い原因を探り、排便コントロールや夜間訪室回数を増やして様子を見ているところである。すべての職員で利用者の立場に立った話し合いを重ね、身体拘束のないケアの実践に向けて、意識統一して取組みをすすめていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで虐待防止の勉強会を開いたり、研修に参加して知識を身に付けるよう心掛けている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングの際に勉強会を開催し、理解出来るように努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には利用者や家族に十分な説明、理解を得た上で行なっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の日頃の会話の中から要望や意見を伺い、職員間で情報共有して実現に向けて取り組むようにケアしている。また、面会時に家族に要望を伺いよりよい方向に向けていけるような取り組みを行っている。 (外部評価) 年2回、みゆきたよりを発行して初詣やお花見、運営推進会議や消防訓練の様子を写真入りで報告されている。事業所では「ご家族同士がお話するような機会を作りたい」と家族会に取り組みされているが、参加するご家族が少ないこともあり、1月には運営推進会議と併せて行われた。現在、参加者は少なく、又、「預けているので任せます」と言われるようなご家族も多いようだ。管理者は、現在、「ご家族と一緒に事業所を作り上げたい」という思いをご家族の来訪時等に、繰り返し話しておられる。	今後、来訪の難しいご家族には、利用者と一緒に会いに行くような取り組みもすすめたいと考えておられる。又、行事等でも一緒に活動できるような機会も作りたいと話しておられた。ご家族に事業所のことをさらに知ってもらい取り組みや、又、意見等を引き出す工夫等も重ねて、ご家族の声を集めて支援や取り組みに反映していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月のミーティングの際に職員が話し合える場面を設けている。	
			(外部評価)	
			ひとりで食事することを希望する利用者には、職員で話し合い、時に皆と食事をする場面を作り、反応等を観察しながら「利用者にとってどのような支援が適切か」を探っているところである。法人代表者は、働きやすい職場作りに向けて、職員に労いの言葉をかけたり「困っていることはないか」尋ね、言い出しやすい環境作りに努めておられる。又、現在、職員の外部研修受講の希望を応援できるような体制整備をすすめているところである。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			研修への参加を促し、各自スキルアップして役割を持ち職員の意欲向上を図り役職や特別手当及び昇給等を設けている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修の案内を掲示し、その職員の力量に見合った研修に参加することで、職員又は職場のレベルアップに努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			勉強会や研修への参加をする事で、同業者との交流を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			相談から利用に至るまで本人又は家族から情報収集を行い、本人との関わりの時間を多く持つように努め、要望や、困っている事を傾聴し、ケアプランに結びつける事で、安心して生活出来る環境作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に希望・要望等を伺い、安心して相談して頂ける様な雰囲気を作り、家族にも安心して頂けるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族との会話や関わりの中で必要としている支援を把握し、ミーティング等を通して職員間で意見を共有し、安心して生活を送って頂けるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に学び支え合う関係を大切にしていけるように努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時ゆっくり過ごして頂けるような環境作りを大切にしている。また、近況など普段から話す機会を設けており、家族が意見や要望が言いやすい関係を目指している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から使っていた物を居室に飾って馴染みの環境で過ごして頂いたり、昔から馴染みのある友人や家族との関わりも大切にしている	
			(外部評価) 入居前は道後温泉を楽しむのが習慣だった利用者には、一緒に出かけていた知人に声をかけて、一緒に温泉に出かけてもらえるよう支援されたこともある。行きつけの美容院を継続して利用できるよう支援しており、カットや毛染め等しておしゃれする方もある。コミュニケーションを取ることが難しかった方が入居後、気の合う利用者ができて昼食後「またお部屋に行くからね」と話しかけておられた。時々、居室で一緒にDVDを見て過ごされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 孤立・孤独をさせないために仲介役となり入居者同士関わりあえる場を提供している。また、気の合う入居者同士は居室で一緒に話せる環境作りに取り組んでいる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も相談出来る関係を築き、必要に応じて助言や支援出来るように努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で信頼関係の構築に努め、会話の中から本人の要望や意見などを聴き出し、職員間で情報を共有し、実現に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 5月から新たに、センター方式のアセスメント表を一部用いて「私のうれしいこと・楽しいこと」「私の介護に対する要望」「私の家族に対する思い」等について情報を集めているところである。「他の方達を楽しませたい」思いのある方は、職員が衣装やメイクをお手伝いして、バナナのたたき売りを皆に見せて喜ばせてくれている。ご自分でも鏡を見て「これはええ」と言って喜ばれるようだ。	2階ユニットリーダーは、利用者は「入居により、あきらめているようなこともあるのではないかと感じておられ、利用者にもう一步踏み込んで思いを探り、支援につなげていきたいと話しておられた。今後はさらに、利用者の「これまでの暮らしぶりや現在の希望、今後の暮らし方の希望」等について探ることに努め、情報を蓄積してさらに利用者主体のケアの実践につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に生活歴や馴染みの暮らし方を把握して、ホームでも馴染みの暮らしを継続出来るように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録やミーティングを通じて生活パターンを把握して、本人の持っている能力等を最大限に発揮出来る場を提供できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 各入居者に担当の職員をつけ、計画作成担当者と共にプランを作成し、ミーティングやカンファレンス等で検討している。本人や家族の話を大切にしてその思いを反映したプラン作りを目指している。</p> <p>(外部評価) ご家族には介護計画を送付し、同封の用紙に意見を書いてもらえるようお願いしているが、意見等はあまり書かれないうだ。介護計画は毎月モニタリングを行い、変化がなければ半年ごとに見直すようになっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に生活記録を記載し、気づきやケアのヒント等は申し送りノート活用している。又、ケアプランの期間に応じて、評価を見直しを行なっている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院介助等、必要に応じて家族の代わりに支援している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に民生委員や町内会長、包括支援センター、介護保険課、市社協等の出席が得られ、理解を深めて頂いている。また、防災訓練にも参加して地域と共に参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的にかかりつけの医療機関からの往診があり、異変があった時には電話して指示を仰いでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在、ほとんどの利用者は、協力医の定期往診を受けており、結果はその都度ご家族に報告されている。その他の医療機関を受診する場合は、ご家族に連絡して職員が付き添い、支援されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>体調の変化があった時には看護師に連絡・相談して指示を仰いでいる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>病院と密に連絡を取り合い、状況の把握に努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>マニュアルや同意書を作成して家族に理解して頂くように努めている。急変や異変があった時は協力医療機関と密に連絡を取り、連携が図れている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りの指針を作成しており、入居契約時には「看取り介護についての同意書」にて意向や要望を聞いておられる。状態変化時等、ご家族の気持ちにも変化があり、入院となるようなケースもあり、これまでには、看取りを支援したような事例はない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実際起こった時に、慌てることなく冷静な判断が出来るように訓練を重ね、適切な行動がとれるように努力している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練を実施し、消防署をはじめ地域の方々にも参加して頂けるように努めている。 (外部評価) 3月に行った防災訓練時には、地域の方達と一緒に消防署の協力を得て事業所内でAED(自動体外式除細動器)の使い方や心肺蘇生法を学ばれた。法人代表者は、今後、災害時に備え、地域の方達のために、一部備蓄を準備できないかと考えておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの性格を理解してその人に合った関わり方や配慮している。 (外部評価) 利用者が清潔に身なりを整えて過ごせるように支援されている。以前の仕事柄もあり、日中は、スカートにストッキングを履き、ジャケットを着て過ごされる方もみられた。職員は、利用者から「社会の常識」を教えてもらうようなことも多いようだ。利用者個々の得意なことを続けられるような支援に取り組んでおられ、調査訪問時、90歳を超えた利用者は、お若い頃に劇をした経験のある「曾我兄弟の仇討ち」のセリフやあらすじを最初から最後まで話して下さった。若年の利用者は他利用者との年齢差もあり、コミュニケーションが難しいようで、職員は、一緒に食材の買い物に出かけたり、調理等しながら過ごせるよう支援されている。又、居室でお好きな編み物や洋裁をする時間も大切にしており、他利用者の繕い物や居間で使用するボックスのカーテン等を作ってくださっている。そのような取り組みが利用者の意欲や自信にもつながっているようだ。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の想いを十分に理解し、自己決定出来るような声掛けや関わり方に気を付けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	声掛け等にも選択性を持ち強制的にならないように心掛け ている。本人の意見を大切に、希望に応じた支援をしてい る。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	衣類など本人の希望により買い物に出かけたり、定期的な訪 問美容を利用したり、外出を兼ねて美容室に出掛けたりして いる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	利用者の体調に合わせて食事形態を変更している。また料 理の手伝いや下膳など出来る事はして頂けるようにしてい る。	
			(外部評価)		
				ユニットそれぞれで食事作りをしており、彩り等にも気配りを されている。敬老の日には赤飯でお祝いしたり、地方祭の日 は、お寿司を作って食事も楽しまれた。土用の丑の日にはう なぎ、お花見にはお弁当を持って桜の下で食事する等、季 節ごとに食事が楽しめるよう工夫をされている。調査訪問時 は、それぞれにマイペースで食事をされ、湯呑みやコップを ご自分で下げる利用者もおられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	本人の体調や病状に合わせて食事・水分のバランスを考え るようにしている。脱水防止のため水分摂取の工夫もしてい る。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	毎食後、入居者の状態に合わせて口腔ケアを行い清潔保 持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 日中は主にトイレを使用して自立支援に努めている。必要に応じてポータブルトイレを使用している。</p> <p>(外部評価) 夜間の排泄支援については、新しい職員の気付きを機に、現状について点検や見直していくことを考えておられ、現在パッド等のサンプルを取り寄せて利用者に向けた介護用品を使用できるよう話し合っているところである。夜間、居室の床で排泄してしまうような利用者にはクッションフロアを敷き、掃除がしやすいようにしていた。トイレの広さに制限があり、車いすを使用する方の中には、居室にポータブルトイレを置き、日中も使用されている。利用者の立場に立ったケアや自立支援の観点から支援の検討を重ねていかれてほしい。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看護師に状態を説明し指示を仰ぐようにしている。また、便秘気味の方には食物繊維の多い物を食べて頂いたり、軽度の運動も取り入れている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の意思を尊重し無理強いせずにその人に合ったペースで入浴を楽しんで頂けるように取り組んでいる。また、入浴は一人ひとりの関わりなのでその人の想いや困っている事を聞きやすいので会話も大切にしている。</p> <p>(外部評価) ゆっくり入浴できるよう一日3名ずつの入浴となっており、他の利用者から希望があれば応じて支援されている。「ひとりで入りたい」と希望する方には、職員は脱衣所から見守るようにされている。入浴の習慣は入居時にご家族に聞くようにされているが、現在、「入浴はいや」という方が多く「道後温泉でなければ」という方には道後の足湯を楽しんだのちに、事業所のお風呂に誘う等、試しながら支援されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中の活動時間を多くし、安眠して頂けるように努めている。就寝前には優しく声かけをしたりして安眠に繋げるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	必ず本人の前で薬に書かれてある名前を読み、誤薬防止に努めている。また、飲み終わるまでしっかりと見守りもしている。
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	一人一人の特徴や得意な事を把握して、メリハリのある生活を送る事が出来るように努めている。
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	職員と一緒に食材の買い物に出掛けたり、また本人の要望を聞き、支援出来るように努めている。
			(外部評価)	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	入居者本人が金銭の管理をしているわけではないが、小遣いという形で保管しており、職員と買い物に行った時は、本人の小遣いから支払を行っている。
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	馴染の方から電話があった時は居室にてゆっくり話す時間を設けている。また、本人宛てに手紙が来られた時は本人に渡している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節感のある飾り付けをしており、目で四季を楽しんで頂けるような取り組みを行っている。また、ぬいぐるみや動物の写真などもおいており、入居者の癒しとなっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>住宅地の中にある事業所で、近くには神社があり、窓からは緑が見えて静かな環境である。居間や廊下にはいろいろな素材のいすやソファを配置して、利用者がお好きな場所で過ごせるようになっている。昼食後、廊下のソファに座って利用者同士、雑誌を読んだり、歌本を見て過ごされていた。テーブルの上には、瓶にどんぐりの実のついた枝を挿し、季節の話題を提供されていた。廊下の掲示板には敬老会時の写真を飾っておられた。カウンターキッチンで食事のできる匂いや音が感じられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファや畳のスペースをリビングに設けており、リラックスして過ごして頂けるように努めている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>住み慣れた部屋にあった家具や写真などを持ち込み居室に配置して、馴染の暮らしを継続出来る様な取り組みを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お天気の良い日には布団やマットレスも太陽に当てて気持ち良く眠れるように支援されている。壁には、息子さんの結婚式やご両親の写真、雑誌の切り抜き、お好きな演歌歌手の写真等、ご自分で貼って楽しんでいる方もいる。散歩の際に被る帽子をたんずの上に、きれいに重ねて置いている方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>フロア全体がバリアフリーとなっており、安全に歩いて頂けるような工夫をしている。また、必要に応じて表札を作って工夫している。</p>	